

Flash FDD製品概要と利用ケース

Flash FDD はフロッピーディスクドライブ相当の機能を有する USB メモリスティック形状の製品です。ブートデバイスとして使用できる上、ドライバ不要で利用可能です。さらにプラグアンドプレイにも対応しているため、サーバ本体装置の USB ポートに差し込むだけでフロッピーディスクドライブとして検出されます。

製品概要

Flash FDD は以下のような機能を備えています。

- USB2.0 対応 FDD エミュレーション機能搭載 USB フラッシュ
- スティックタイプ、FD 代替品と判別できるように「FD アイコン／容量」を表記。
- 容量 1.44MB (FAT フォーマット済)、FD 媒体(2HD)1 枚分相当
- ストラップホール(紛失防止)、ライトプロテクトスイッチ(書き込み防止)機能搭載



主な利用用途とケース

主な作業において、Flash FDD が必要となる条件は下表の通りです。システム環境をご確認いただき必要に応じて手配ください。

作業	Flash FDD が必要となる条件	備考
インストール	Linux サービスセット対象の Linux OS をインストールする場合	インストール時にドライバディスクを使用する場合は必要。現行機種種の要否状況は「BTO 対応機種、対応 OS、対応カーネル最新状況」の「ドライバFD:」欄を参照。 BTO 対応機種、対応 OS、対応カーネル最新状況 http://www.nec.co.jp/linux/linux-os/pdf/linux_bto_kernel.pdf
	Microsoft Windows Server 2003 R2 以前の Windows Server OS を手動インストールする場合	ドライバを読み込むための起動 FD(OEM-FD)作成の際に必要、Windows Server 2008 以降では不要
システム維持	BIOS や各種ファームウェアをオフラインでアップデートする場合	現行モデルでは CD/DVD によるアップデートおよびオンラインアップデートツールに対応しているため不要
	オフラインでExpress通報サービスを開局する場合	開局情報の CD-ROM 提供および Web でのダウンロードも可能
	CA ARCserve Backup のディザスタリカバリオプションを使用する際に、以下の条件を共に満たす場合 ● CA ARCserve Backup のバージョンが r15 以前 ● CA ARCserve Backup のバージョンが r16 以降で以下の条件の何れかを満たす場合 - Bootable CD 方式を使用 - WinPE DR 方式を使用して Windows Server 2012 以外の OS をローカル復旧	但し左記条件を満たさない場合でも、追加ドライバがあれば Flash FDD が必要。また、左記条件を満たしている場合でも惨事復旧方式によって Flash FDD が不要なケースあり。
	Backup Exec Intelligent Disaster Recovery オプション/NetVault でディザスタリカバリを実施する際に、追加ドライバのインストールが必要な場合	追加ドライバが必要無い時は不要
保守	ハードウェアの交換や修理の際に装置固有の情報(号機番号など)をバックアップ/リストアする場合	現行モデルでは不要
	オフラインでシステムイベントログや設定情報等を採取する場合	システムイベントログ(SEL)の場合は ESMPRO ツールによりオンラインで採取可能なため不要